

目標設定シート (2009年度)

部局と評価項目・要素

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	0 理念・目的	
中項目		
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応	
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

○2009年度からの目標

1. 関西学院大学が設立された建学の理念・ミッションを再確認し、その今日的展開として「ミッションステートメント」を宣言し、本学の教育・研究などあらゆる活動の指針とする。
2. 本学はその理念とするキリスト教主義にもとづいた特色ある教育研究をもって社会に寄与するために、「目指す大学像」を掲げ、その実現に向けた実施計画を策定する。
3. 「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」を学内において共有し、学外に公表する。また、その浸透・認知のために具体的施策を実施する。
4. 建学の理念等の学内外における浸透度・認知度を測定する体制を整備する。

なお、新基本構想（2008年12月承認）において策定された「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」は、次の通りである。

（1）ミッションステートメント：関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service” [「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるために自らを鍛える関学人のあり方を示す] を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことと使命とする。

（2）目指す大学像：関西学院大学は、キリスト教主義に基づく〈垣根なき学びと探究の共同体〉をめざし、全人的な教育と創造的な研究により有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命とする。

《目指す大学像設定の趣旨》1929年、新設の西宮上ヶ原キャンパスに立った第4第院長C. J. L. ベーツは、果樹園へつらなる開放的なキャンパスを、“We have no fences”と評した。当時のキャンパスには、教員と学生、大学と社会、国境という垣根を意識させない「学びの探究の共同体（ラーニングコミュニティ）」が存在し、新しい社会を創造する気概にあふれていた。現在、世界は、グローバル化やICTの急進に伴い、地球規模の相互依存が深まる一方、人種・文化・宗教・民族・国家の間にある《垣根》により現代社会特有の摩擦・軋轢が生まれている。こうした現代社会にあって関西学院大学は、高い専門能力と深い人間理解を合わせもち、他者に対する共感をもって人類社会の幸福に貢献する意思と能力をもつ人物を養成するために、キリスト教主義に基づき、学生・教職員すべてが主体的学び合う《垣根なきラーニング・コミュニティ》の実現を目指す。

○指標

1. 「ミッションステートメント」の策定及び宣言
2. 「目指す大学像」にむけた実施計画の策定
3. ①学生及び教職員における「ミッションステートメント」、「目指す大学像」の浸透度
②卒業生における「ミッションステートメント」等の認知度
4. ミッションステートメント等の浸透度、認知度を測定する手段の整備と調査の実施